

令和 8 年度
事業計画書

公益財団法人滋賀県希望が丘文化公園

令和8年度は、第6期指定管理期間2年間の1年目にあたるとともに、当公園活性化方針に基づく新たな事業者の募集が始められる重要な年であり、これまでの管理運営と事業を集大成して新事業者に引き継いでいけるよう、また「100年先にも誇れる公園づくり」のレガシーを形成できるよう、全職員一丸となって魅力溢れる公園づくりを推進する。

また、開園55周年という記念すべき節目の年度となることから、日頃のご愛顧に感謝を込め盛大に記念事業を開催し賑わいの場を創出するとともに、開園以来、培ってきた長年の経験と実績を基に、指定管理者としての使命を果たすべく、経営目標の達成や提案事項の遂行に注力し、安心・安全・快適な管理運営の推進に邁進していく。

一方、コロナ禍以降、来園者数や施設利用者数が徐々に回復傾向にある中、これまでの取組の実績や成果を十分に点検・検証するとともに、公園の自然環境や資源を最大限に活かして、さらなる利用者サービスの向上や多彩な事業を展開しつつ、キャンプリダーなどの優れた人材・資源等を生かして公園の魅力を全国に向けて発信する。

開園55年目となる施設・設備は、経年劣化による損傷のため修繕や老朽化対策が常時必要となっているところであり、広大な公園内のライフラインをはじめ、中央道、河川、自転車道、森林や芝生地など、自然公園の維持管理には、安心・安全ならびに自然環境の保護・保全の確保に細心の留意を払っていく。

また、幅広い年齢層における健康の保持・増進に貢献できるよう、全国大会を含めた各種のスポーツ大会などを開催・支援する他、国スポ・ラグビーフットボール競技大会の成果などを踏まえてスポーツ振興に取り組むとともに、特に子どもたちに対しては、宿泊やキャンプなど自然や仲間とのふれあいの中での様々な体験ができる場所・機会を提供し、健全な心身の発達とたくましく生きる力を育成に努める。

さらに、開園55周年を記念する新規事業をはじめ、県民・利用者からのニーズの高かった「キッチンカーグランプリ」や「フリマフェスタ」を継続開催し、県民の交流・交歓の機会を提供する他、企業や法人等に向け公園の利用促進や連携を引き続き図っていくとともに、「アクティブ団体事業」として公園内での企業CSR活動や団体による独自取組を支援することで多面的な公園利用を拡大していくこととし、「希望が丘 企業・団体連携による森づくり活動」などの県民参加による公園づくりを進めていく。

広報面では、施設や事業の情報その他、移り変わる自然・風景など様々な公園の姿をInstagramをはじめとしたSNSや公園ホームページで発信するなど、地元市町とも連携しながら注目度の高い効果的かつ効果的な広報・PR活動を実践していく。

〔希望が丘文化公園の運営〕

1 基本方針

(1) 自然と人との共生

希少植生の保護や荒廃が進む森林の保全に的確に対応するなど、豊かな自然を保護、活用し、多くの来園者が自然の恵みを楽しむことによって、逞しい人間力と豊かな人間文化力を育む公園として、100年後も栄える滋賀のもりづくりに貢献する。

(2) 教育的機能の発揮

スポーツ、宿泊、野外活動、その他の施設を活用して、あらゆる年代の人々の共同宿泊活動や野外活動、スポーツ活動を促進し、これらの活動から得られる社会性や創造性など望ましい人間性を高めることにより、世代に応じた人間力と人間文化力の向上を図る公園として、100年後も栄える滋賀のひとつづくりに貢献する。

(3) ふれあい公園の創出

来園者の誰もが憩い、楽しみ、交流・交歓できる景観の創出や行事の実施など、“ふれあいの場”を提供することによって、家族が、友達が、知る人も知らない人もともに声をかけ、あいさつを交わし、笑顔が溢れる豊かな人間性を育てる公園として、100年後も栄える滋賀の活力づくりに貢献する。

(4) 納得公園の演出

公園設置54年の歴史を活かし、来園者はもとより公園設置者、公園管理者も自信と誇りの持てる納得の管理運営を確保し、大切な県民の財産として100年後も誇れる管理運営を行う。

(5) 眼差し公園による管理運営

公園設置54年の継続した管理運営の実績を活かして、常にお客様の立場に立った安全性や利便性を追求し、お客様の全てを優しく見守る公園として、管理運営を行う。

2 経営目標

(1) 管理運営目標

ア 自主財源率の目標

自主財源率：

令和6年度実績 30.0% → 令和7年度見込 31.0% → 令和8年度目標 32.9%

<実現策(新規)>

(ア) 昨年大好評であった「キッチンカーグランプリ」や県民ニーズの高い「フリマフェスタ」を開催し、施設使用料収入および事業収入のいずれも増収を図る。

<実現策(継続)>

(イ) 夏休みわんぱくキャンプは、文部科学省の2ヶ年に及ぶ体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト事業に採択されている。また、なでしこサッカー大会は、スポーツ振興基金助成の申請を行うことで、それぞれ事業委託料や補助金を確保する。

(ウ) 社会教育、自然環境保全、野外活動およびスポーツ等の一連の取り組みが拡充できるように、「希望が丘みらい基金」や各種助成金・協賛金、広告料等の獲得により、企業、各種団体、さらには事業参加者などへ積極的に協力・支援を働きかける。

(エ) 4月から9月末までの月曜日(祝日の場合はその翌日)は、すべて開園する。なお、10月から3月末までの月曜日は休園日とするが、利用の申し出があれば積極的に受け入れて部分開園の措置を講じる。

(オ) 来園者数、施設利用者数および事業参加者数を増やすため、それぞれの目標に向けた実現策に、各担当ごとに果敢に取り組み、利用料金収入の増収を図る。

(カ) 安心・安全を第一に考え「効率的かつ効果的な業務は外部に委ねる」ことを基本として、利用者サービスの向上とコスト削減を図る。併せて、職員の技術・経験を活かした直営修繕によって即応性を高め、経費削減を徹底的に行う。

(キ) 持続的な環境負荷低減活動を推進し、省資源化および省エネルギー化により、経費の縮減を図るとともに、自然や環境に配慮した事業やサービスの提供に努める。

イ 来園者数の目標

来園者数：

令和6年度実績 906,840人 → 令和7年度見込 975,000人 → 令和8年度目標 930,000人

<実現策(新規・見直し)>

(ア) 県内外から非常に高い人気があるグルメイベントで、県内で唯一の「キッチンカーグランプリ」を11月に2週にわたり開催し多くの来園者を見込む。

(イ) グラウンド・ゴルフ事業の活性化策として、5,000円の会費でプレー料金が1年間無料となる「会員特典制度」を導入し、グラウンド・ゴルフ場の賑わいを創出するとともに、リピーターの確保と来園者増を図る。

<実現策(継続)>

(ウ) SNSの積極的で効果的な発信やホームページの内容の充実を図り来園者増に努める。

また、県内企業へのトップセールスや、県内外の学校団体、子ども会、スポーツ少年団へのイベントガイドやパンフレットの効果的な配布など、営業活動の強化策を講じる。

(エ) 人気の高いフリーマーケットを通して、家族や仲間との交流・交歓を深める場を提供す

- る「フリマフェスタ」を年間通して開催し、公園の賑わいを創出する。
- (オ) 「希望が丘書道展」を継続開催し、県内全域の小中学生に広く周知を図り文化ゾーンの賑わいと来園者増を図る。また、青年の城中ホールの展示スペースを広く県民の文化活動の発表や紹介の場に活用していただき、来園者の裾野を拡大していく。
- (カ) 財団が実施しているフィールドアスレチック事業について、自然とのふれあい、健康づくりの場となるよう、継続して12月から2月の第4土曜日を「希望が丘フィールドアスレチックふれあいサタデー」として1日間無料開放し来園者増を図る。
- (キ) 様々な駐車料金の回数券(1万円：普通車500円券1冊30枚綴り・5千円：普通車500円券1冊13枚綴り・2千円：普通車500円券1冊5枚綴り)を販売し、利用者のニーズに応えるとともに、駐車料金の割安感をアピールすることで利用者サービス・利用拡大に向けた取り組みを行う。
- (ク) マイクロバス2台体制で青年の城宿泊者のスポーツ施設やキャンプ施設との併用利用に対応する他、園内移動や輸送などの送迎サービスの充実を図り来園者および施設利用者の増を図る。

ウ 施設の利用者数の目標

施設利用者数：

令和6年度実績 208,084人 → 令和7年度見込 230,000人 → 令和8年度目標 227,000人

<実現策(新規・見直し)>

- (ア) 「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025」のラグビーフットボール競技の試合会場として使用された球技場および陸上競技場を、次代を担う青少年が身近にスポーツを楽しめる施設として使用してもらえよう、SNSを積極的に活用した広報・PRに注力し、利用促進に努める。
- (イ) 人工芝に照明が完備された球技場の夜間利用は、徐々に利用ニーズが高まっており、体育室の夜間利用と併せて、その期待や要望に応えるとともに、一層のPRおよび利用促進に努める。
- (ウ) 彦根市の荒神山自然の家が7年度末で閉館される。青年の城においては、当該施設の利用者の受け皿となるべく、取り巻く情報の収集に努めるとともに、県内外の宿泊体験活動や自然体験活動のPRに取り組む。

<実現策(継続)>

- (エ) 10月から3月末までの月曜日を休園日とするが、休園日前日の宿泊を希望される場合には、翌朝の退園まで利用いただけるよう柔軟な対応を行う。
- (オ) 野外活動センターにおいては、家族やグループで利用しやすい持ち込みテントのスペースを拡充し、利用しやすさをPRして利用促進に努める。
- (カ) キャンプ場への車両の乗り入れについては、持ち込みテントのスペース増大に伴い、可能な限り車両をサイト近くで駐車できるように配慮し、利便性の向上を図る。
- (キ) スポーツ施設の利用は、要望があれば午前7時から早朝利用、さらに照明設備のある体育室は、最終午後9時まで夜間延長利用にも対応する。
- (ク) 新規利用者の開拓やリピーターの確保のため、利用状況や社会情勢の分析を随時行い、京阪神方面や中京圏の学校、団体等に公園PR、施設利用案内のDMを行う。

エ 事業参加者数の目標

事業参加者数：

令和6年度実績 98,705人 → 令和7年度見込 123,000人 → 令和8年度目標 107,000人

<実現策(新規・見直し)>

- (ア) 開園55周年を記念し、これまでの感謝を込めてスポーツゾーンの芝生ランドを中心に、子どもたちに人気のキャラクターショー「ちびっこワクワクステージ」や地元2市1町の出展、体験ブースなどを企画し賑わいの場を創出する。

- (イ) 「夏休みわんぱくキャンプ」は、文部科学省の2ヶ年に及ぶ「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」に採択され、令和7年度の実績を基に全国的な普及を図るべく、国立曽爾青少年自然の家を会場に6泊7日の長期キャンプを実施する。
- (ウ) 滋賀県初となるドッグマラソンの全国大会「滋賀カニクロス」を開催し、広大な自然環境を有する当公園を広く全国に向け発信し、参加者の健康増進と事業参加者増を図る。
- (エ) 広大なフィールドを活用して、人気の高い「キッチンカーグランプリ」や「フリマフェスタ」を開催するとともに、多彩な体験プログラムコーナーを設けるなど、幅広く誰もが気軽に楽しめる交流・交歓の場を提供する。

<実現策（継続）>

- (オ) 企業や法人等の公園内でのCSR活動や社会貢献活動を支援、発信する「アクティブ団体事業」や「希望が丘 企業・団体連携による森づくり活動」を継続して取り組み連携団体の拡大を図るとともに、多くの県民に参画していただける公園運営を目指す。
- (カ) 県書道協会と連携して取り組む「希望が丘書道展」では、青年の城を文化活動の拠点として発信し、新たな参加者の拡大を目指す。
- (キ) 「希望が丘魅力発信事業」としてSNSを活用するとともに、地元2市1町で開催されるイベントや県内の関係する施設等に積極的に出向き、公園の体験プログラムの紹介や事業のPRを行い、事業参加者の拡大を図る。
- (ク) 参加定員を超えて申し込みをいただく事業については、安易に選外とはせず、安全対策を十分に考慮したうえで、可能な限り定員枠を拡大して受け入れられるように考慮する。
- (ケ) 受益者負担を原則とするが、できるだけ手頃な参加料金で県民ニーズの高い事業を企画するとともに、安全面や指導体制を万全に確保したうえで開催する。

オ 施設利用者および事業参加者の満足度の目標

満足度：

令和6年度実績 97.3% → 令和7年度見込 98.0% → 令和8年度目標 98.0%以上

<実現策（継続）>

- (ア) 団体を対象にした「アクティブ団体事業」や「希望が丘 企業・団体連携による森づくり活動」を実施することで、県民参加による魅力溢れる公園づくりを推進し、来園者の満足度向上を図る。
- (イ) 来園者および事業参加者ならびに施設利用者へのアンケート実施のほか、対話による意見収集などを集計・分析して、公園の管理運営に活用する。
- (ウ) 利用者ニーズの把握や施設運営への反映の取り組みについては、公園運営推進協議会や公園利用者懇話会のメンバーに内容を公開し、意見を伺う。
- (エ) 来園者からいただいたすべての意見・要望や対応については、公園内運営会議で課題を共有し、対応方法および業務改善策を協議・決定する。
- (オ) 利用者トラブルの未然防止のため、日頃から目配り、気配りを心がける。苦情が発生した時は、迅速に誠意を持って、真意を理解し、納得いただけるまで丁寧に対応する。また、改善策を検討し、再発防止に努める。

(2) 管理運営の新たな視点と主な取り組み

- ア 54年が経ち経年劣化による施設・設備の損傷が多く見られる。また、森林の保護・保全にも改善の必要箇所が後を絶たない。416haを有する広大な公園内の安心・安全の確保のため、施設の老朽化対策や修繕対応には万全を期していく。
- イ 駐車料金の徴収や普通車500円が高いという声が多くある。頂戴した駐車料金は広大な希望が丘の自然の保護保全や施設の維持管理に役立てられていることを丁寧に説明し理解を得ていく。
- ウ 来園者および施設利用者の園内移動や荷物輸送などの送迎サービスが好評であることからマイクロバス2台による効率かつ効果的な運行計画により、青年の城宿泊者のスポーツ施設

やキャンプ施設との併用利用促進や来園者の拡大を図る。

- エ 利用者ニーズを把握するため、「ご利用者の声」箱の設置、利用者や参加者へのアンケートに加え、対話を通して来園者の生の声を取り入れる。また、意見・要望やアンケート結果は、業務改善や公園管理に速やかに活かしつつ、PDCAサイクルによるサービス水準の確保向上に努める。
- オ 環境負荷低減やCO₂・ゴミ排出量削減、環境教育等に努め、快適な公園づくりに取り組む。また、廃棄物「ゼロ」を目的とした、ゼロエミッションの考え方を森林整備に導入し、廃材や間伐材の活用に努める。
- カ 日常・定期的な安全点検に加え、利用シーズン前、豪雨、台風、降雪後等においては、より一層慎重な点検を実施する。また、警報等の発令によっては臨時に休園措置を講ずるほか、利用者の安全確保・事故防止に万全を期すとともに、職員の危機管理意識・能力の向上を図る。
- キ 管理運営や事業推進において、工夫・改善、新たな取組などの提案の受け皿を設け、実現可能かつ有効なものは積極的に業務に活用していく。
- ク 園内モニタリングや職員研修を定期的に開催し、すべての業務において適正な事務処理の徹底に努める。

(3) 事業推進の新たな視点と主な取り組み

- ア 前身となる組織を含め、50年以上にわたり希望が丘文化公園の管理運営を行い、本県の文化やスポーツの振興、青少年の健全育成などに貢献してきたが、当公園活性化方針に基づく新たな事業手法がスタートするまでの2年間は、これまでの管理運営と事業を集大成して新事業者を引き継ぐべく魅力溢れる公園づくりに挑む。
- イ 開園55周年の節目の年となることから、県や地元2市1町と連携し記念事業を開催し、今までのご愛顧に応えるとともに、新たな利用者の獲得に努める。
- ウ 「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025」のラグビーフットボール競技の試合会場として使用された施設を、身近にスポーツを楽しめる施設として使用してもらえるよう財団のSNSを積極的に活用し県内外に広く発信する。
- エ 団体が公園内で行うCSR活動や社会貢献活動を支援する「アクティブ団体事業」を実施し、公園内での登録団体等の活動を促進するとともに県民参加の公園づくりを推進する。
- オ 森林保護・保全の取り組みの一環として「森づくり活動の日」を定め、近隣の企業、関係団体等と連携・協働しながら、森の下草刈りや間伐等を行い、景観の創出と里山機能の復活、生物多様性・希少種の保護・保全に取り組む。
- カ 次代を担う子どもたちに「きぼっこ体験事業」を通じて、豊かな人間性、創造性を育む取り組みを継続して実施するほか、未就学児や小学低学年からの自然体験活動に注力するとともに、広く楽しみながら自然に親しみ、学ぶ場を提供する。特に、「わんぱくキャンプ」については、6泊7日の日程で計画し、リアルな体験活動を重視する。
- キ 子どもから高齢者までの世代をつなぎ、四季折々に公園を訪れるきっかけとなる「フリマフェスタ」や「キッチンカーグランプリ」を通して、広く県民に交流・交歓の場を提供する。
- ク あらゆる年代の方々がスポーツに気軽に親しみ、楽しみながら健康づくりに役立つ取り組みやスポーツの楽しさを感じながら仲間との交流を深める大会など、関係機関、地元市町や各種団体と連携しながらスポーツ・健康づくりを推進する。
- ケ キャンプリーダーは、新規募集から養成講習、研修、実践を計画的に行い、人材育成と事業参画の機会を拡充する。また、地元中学校の職場体験学習や県内大学とのインターンシップについては、それぞれの意向を汲んで積極的に受け入れていく。

3 事業内容

別紙のとおり

■ 令和8年度 事業内容

番号	事業名	事業内容	開催予定日	参加費
1	新緑のプリマフェスタ	新緑の季節に、家庭の不要品や手づくり品を対象とした根強い人気のフリーマーケットを開催するとともにNPO法人等と連携し、にぎわいを創出する。	5月 年間1回	5,000円以下
2	初夏のプリマフェスタ	公園の中央道を活用し、家庭の不要品や手づくり品を対象とした根強い人気のフリーマーケットを開催し、県民の交流を図るとともに、キッチンカーを出店するなどしてにぎわいと憩いの場を提供する。	6月 年間1回	5,000円以下
3	秋のプリマフェスタ	秋の行楽シーズンに公園開園55周年記念事業と根強い人気のフリーマーケットを同時開催し、より多くの県民の交流と親睦を深める場を提供する。	10月 年間1回	5,000円以下
4	春のプリマフェスタ	春のすがすがしい季節に、フリーマーケットを実施してにぎわいを創出し、当公園のPRを図るとともに認知度を高める。	3月 年間1回	5,000円以下
5	希望が丘開園55周年記念事業	開園55周年を記念し、子ども向けキャラクターショーや各種体験ブースを展開する。また、秋のフリーマーケットを同時開催し、誰もが楽しめる地域コミュニティのつながりを深め世代を超えた交流とにぎわいを創出する。	10月 年間1回	5,000円以下
6	○共催事業 第2回 キッチンカーグランプリ	多くの人が集う公園空間を活用し、食を通じたにぎわいの創出と交流の促進を目的として開催する。また、多彩なキッチンカーが集うことで、来園者に新たな楽しみや発見を提供するとともに、地域の魅力や食文化を発信する機会とする。	11月 年間1回	出店料を徴収 (変動制)
7	○共催事業 けんせつみらいフェスタ	スポーツゾーンで重機の体験コーナーやステージコーナーを設け、建設の仕事を楽しみながら学ぶ場を提供する。	10月 年間1回	無料
8	○共催事業 よさこい演舞 in 希望が丘文化公園	よさこい方式でのお祭りで、各団体はすべて持ち込みによる演奏とし、中央道およびエリア指定での演奏とする。よさこいの醍醐味を演者も来園者も楽しんでいただく。	3月 年間1回	無料
9	○共催事業 湖国ハンドメイドフェスティバル	広大な芝生ランドで体験型のハンドメイドマルシェを出展する。公園の魅力発信とともにハンドメイドの楽しさを体験していただく。	3月 年間1回	5,000円以下
10	○共催事業 ビワイチプラス体験イベント	滋賀県観光交流局ビワイチ推進室と協力し、来園者にサイクリングの楽しさ、ビワイチの魅力を伝える。	5月 年間1回	無料
11	○共催事業 第28回日本オープン Presented by DISCRAFT	日本ディスクゴルフ協会等と連携し、スポーツゾーンの広大なフィールドを活かしてプロ・アマチュアのトーナメント大会を開催し、競技普及と選手育成、生涯スポーツの振興を図る。	7月 年間1回	共催団体(日本ディスクゴルフ協会)が徴収
12	○共催事業 スポーツイベント「ほほえみスポーツ鬼ごっこ」	老若男女が誰もが気軽に取り組み、スポーツをすることで得ることができる喜びを、多くの方に感じてもらうことを目的に実施する。	3月 年間1回	共催団体(NPO法人YASUほほえみクラブ)が徴収
13	希望が丘書道展	公益社団法人滋賀県書道協会と連携し、書道を通じて小中学生に自然や仲間とのふれあいの大切さを学んでいただく機会とする。	審査8月 展示8月～10月	無料
14	希望が丘魅力発信事業	各種SNSやHPによる情報発信や、半期毎のイベントガイド作成、全園事業の発信等による広報とともに、各種イベントに出展するなどして公園の認知度と親和度を高める。	通年	500円以下
15	公園サポーター事業	ボランティア活動に意欲のある人材を募集し、参画と協働を促進するとともに公園活性化を図るとともに、新たに団体を対象とした仕組みづくりを進める。	通年 活動随時	無料

番号	事業名	事業内容	開催予定日	参加費
16	アクティブ団体事業	公園内でCSR・社会貢献・環境保全を目的として活動する団体を支援するとともに、団体と連携・協働し公園の活性化を図る。	通年 活動随時	無料
17	希望が丘アウトドアスクール	県内中・高等学校・大学・専門学校等と連携し、勤労体験やインターンシップを受け入れるとともに、学校や各種団体への体験活動指導を実践する。また、自然の中での遊びや自然体験プログラムを通して公園内外に関わらず野外活動や自然体験の指導を行う。	通年	10,000円以下
18	○共催事業 滋賀県スポーツ少年大会	滋賀県スポーツ協会等と連携し、滋賀県下のスポーツ少年団員を対象に、スポーツ・文化学習・交流交歓等の活動や集団生活を通して心と身体を育て、団活動の活性化を図る。	8月 年間1回	共催団体(滋賀県スポーツ協会)が徴収
19	希望が丘ディスクゴルフ大会2026	広大なフィールドと常設コースを活用し、滋賀県フライングディスクゴルフ協会との協働により、ディスクゴルフの魅力を広げるため県内外から参加者を募る大会として開催する。	9月 年間1回	2,000円以下
20	○共催事業 滋賀県スポーツ少年団 ジュニア・リーダースクール	滋賀県スポーツ協会等と連携し、地域のスポーツ少年団活動でリーダー的な役割を担える人材の育成と将来へ向けた指導者育成を図る。	12月 年間1回	共催団体(滋賀県スポーツ協会)が徴収
21	連携・協働 ○共催事業 希望が丘ふれあいキャンプ ～病気の子どもたち・障がいのある子どもたちとともに～	NPO法人多幸等と協働し、病気や障がいを持つ子どもたちとその家族が楽しくキャンプを行えるように支援し、自然や野外活動への興味・関心を高め、絆を深めることができる場を提供する。	①4月・②9月 の年間2回	共催団体(NPO法人多幸)が徴収
22	○共催事業 輝竜キャンプ	公益財団法人竜王町地域振興事業団と協働し、小学生を対象に、野外活動や共同生活を通して、自主性や協調性を身につける機会を提供する。	8月 年間1回	共催団体(滋賀県キャンプ協会)が徴収
23	○共催事業 希望が丘リトリートキャンプ ～引きこもりの人へのサポート～	NPO法人多幸等と協働し、引きこもりの人が楽しくキャンプを行えるように支援し、自然や野外活動への興味・関心を高め、心身の健康を取り戻すことができる場を提供する。	11月 年間1回	共催団体(NPO法人多幸)が徴収
24	○共催事業 キャンプインストラクター養成講習会	滋賀県キャンプ協会と協働し、日本キャンプ協会公認のインストラクター資格取得のための講習会を行い、キャンプ指導者の育成を図る。	11月 年間1回	共催団体(滋賀県キャンプ協会)が徴収
25	○共催事業 みさき自然公園子どもキャンプ	みさき自然公園で小学生を対象に、自然の中での体験活動を通して、仲間と協力する力や自分で考え行動する力を育むとともに、自然環境に対する理解を深めるキャンプとして開催する。	12月 年間1回	共催団体(シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社)が徴収
26	○共催事業 キッズ防災キャンプ	多様な団体と協働し、災害時に備え不便や不自由を体験することで、「人とのつながり」「協力し支え合うこと」が大切であることを伝え、学ぶ場を提供する。	1月 年間1回	10,000円以下
27	希望が丘ハイキング	自然環境に恵まれた希望が丘とその周辺地域を活用し、自然の中に身を置くことにより心身の健康増進に取り組む場を提供する。	4月・10月 年間2回	500円以下
28	自然・森づくり 希望が丘 企業・団体連携による森づくり活動	森づくり活動の大切さを公園から発信し、自然環境の価値を再認識することを目的に、県内の企業・団体等と連携し、下刈り、除伐といった森づくりの活動を行い里山機能・自然公園機能の活性化を図る。	11月 年間1回	無料
29	クラフト&フィールドゲーム	各ゾーンにおいて、来園者・利用者のニーズに応じて体験プログラムを提供する。体験機会を広めるため、夏休みや休日に気軽に親子で体験できる機会を設ける。	通年	1,000円以下

番号	事業名	事業内容	開催予定日	参加費
30	希望が丘ランニングスクール2027	陸上競技場でランニングの基本を学び、スポーツを楽しむ、参加者の交流を深める場を提供する。	1月 年間1回	1,000円以下
31	希望が丘カップ グラウンド・ゴルフ大会 ①月例大会 ②グランドチャンピオン大会 ③希望が丘カップ2026アフターマッチ	各8ホール4コースでスコアを競う。 ①月例大会:各回80名×2部×9回 ②グランドチャンピオン大会:100名×1部 ③希望が丘カップ2026アフターマッチ:120名×1部	①4月~1月 (年9回) ②③3月	1,000円以下
32	○共催事業 第39回滋賀県グラウンド・ゴルフ春季大会決勝大会	常設コースを使用して滋賀県グラウンド・ゴルフ協会と開催し、生涯スポーツの振興、健康づくり、仲間づくりの場を提供する。	6月 年間1回	共催団体(滋賀県グラウンド・ゴルフ協会)が徴収
33	○共催事業 第39回滋賀県グラウンド・ゴルフ秋季大会決勝大会	県内各地で予選を開催。決勝を常設コースを活かし、滋賀県グラウンド・ゴルフ協会と開催。生涯スポーツの振興、健康づくり、仲間づくりの場を提供する。	11月 年間1回	共催団体(滋賀県グラウンド・ゴルフ協会)が徴収
34	○共催事業 滋賀県スポーツ少年団サッカー交流大会 U-10 2026 in希望が丘	大会への参加機会が少ない小学校4年生以下のチームを対象に、スポーツを楽しむ、仲間との交流を深めることができる場を提供する。	6月 年間1回	共催団体(滋賀県スポーツ少年団)が徴収
35	○共催事業 滋賀県高等学校駅伝競走大会(男女)	滋賀県高等学校体育連盟に加盟する学校の生徒が、近畿大会・全国大会の出場を目指して競い合う全県規模の大会。青少年の体力増強と健全育成を目的として開催する。	11月 年間1回	共催団体(滋賀県高体連)が徴収
36	○共催事業 びわ湖駅伝スポーツフェスティバル2026	広大かつ安全な園内環境を活かし、全国の市民ランナーやジョギング愛好者にも門戸を開いて、駅伝を楽しむ、健康の保持増進や交流を深める場を提供する。	11月 年間1回	共催団体(滋賀県スポーツ協会)が徴収
37	滋賀県中学生ベースボールフェスティバル2026	中学生を対象に各種コンテストや野球教室を開催。県軟式野球連盟等と共催し、スポーツ・健康づくりの推進を図る。	12月 年間1回	2,000円以下
38	○共催事業 BIWAKOクロカン2027 ・第38回全日本びわ湖クロスカントリー大会 ・第12回全国中学生クロスカントリー選手権大会	広大かつ安全な園内環境を活かし、全国から集った選手による大会を開催し、中・長距離選手の強化・育成・発掘を行うとともに、相互の交流を深める場を提供する。	1月 年間1回	共催団体(京都新聞滋賀本社)が徴収
39	全国の仲間と深めよう 競いあおう 第16回びわ湖カップなでしこサッカー大会 U-12	広大な芝生ランドを活かし、全国から選りすぐられた少女サッカーチームによる大会を開催し、スポーツを楽しむ、仲間と交流を深める場を提供する。	2月 年間1回	15,000円以下
40	○共催事業 滋賀県スポーツ少年団 ラグビーフットボール大会	滋賀県内のラグビーの普及・競技力向上とラグビーを通じて小学生年代の心身の健全な育成に寄与する。	3月 年間1回	共催団体(滋賀県ラグビー協会)が徴収
41	○共催事業 ドッグマラソン2027 滋賀カニクロス	人と犬が対等なパートナーとして一緒に走るドッグスポーツ「カニクロス」を公園で開催し、人と犬との健康づくりやコミュニケーションの向上を目指し、世代や職業を超えた地域型スポーツ・アウトドア文化の交流を図る。	2月 年間1回	共催団体(カニクロスジャパン)が徴収
42	“きぼっこ体験事業” ちびっこファミリー自然とあそぼう!	家庭や地域において子どもが人や自然と直接ふれあう経験が少なくなっている今日、自然や生きもの等への関心が増える年齢期の子どもとその家族を対象に自然や美しいものに感動する心や子ども同士の交流を通して思いやりの心を育む機会を提供する。	4月・6月・9月・ 11月 全4回 140人	500円以下
43	“きぼっこ体験事業” 希望が丘里山楽校	新緑の希望が丘で、異年齢の子どもたちが共同生活・体験を通して自主性・協調性を身に付けるとともに、自然とのふれあいや里山体験により、環境や生態系への気づきを得る場を提供する。	5月 年間1回	8,000円以下
44	“きぼっこ体験事業” 希望が丘夏休み自然塾	小学3年生から小学6年生の児童たちが、専門家の指導のもとで植物や生きものの調査研究を行い、自然や環境への理解を深める場を提供する。	7月 年間1回	25,000円以下

番号		事業名	事業内容	開催予定日	参加費
45	宿泊体験・自然学習	“きぼっこ体験事業” 希望が丘林間スクール	小学生を対象に、青年の城を中心とした文化ゾーンを会場にして、生活体験や自然体験活動等を通して、自主性・協調性・社会性を身に付ける場を提供する。	12月 年間1回	8,000円以下
46		希望が丘自然観察会	季節に応じたテーマを設定し、公園内を散策しながら自然観察を行い、自然や生態系への興味・関心を高める場を提供する。	4月・11月・3月 全3回	500円以下
47	野外活動・キャンプ	希望が丘ファミリーキャンプフェスタ	自然の中での野外活動を通して、日常では味わいにくい体験や感動を家族や仲間と分かちあえる場を提供する。	7月 年間1回	6,000円以下
48		“きぼっこ体験事業” 希望が丘夏休みわんぱくキャンプ	異年齢の子どもたちが、6泊7日の長期キャンプを通して自主性・協調性を身に付けるとともに、克服体験や達成感によってたくましく成長する場を提供する。	8月 年間1回	30,000円以下
49		文部科学省委託事業 夏休みわんぱくキャンプ in 曾爾青少年自然の家	このキャンプでは、文部科学省の体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクトである「教育効果の高い長期自然体験活動」を全国的に普及させるため開催する。	8月 年間1回	30,000円以下
50		“きぼっこ体験事業” 希望が丘ちびっこキャンプ	キャンプ経験の少ない小学校低学年（1年生～3年生）の児童を対象に、野外活動や共同生活を通して、自主性や協調性を身に付ける場を提供する。	10月 年間1回	10,000円以下
51		“きぼっこ体験事業” 希望が丘わいわいクリスマスクッキング	クリスマスならではのアウトドアクッキングやクラフトを通して、自然や野外活動への興味・関心を高め、家族の絆を深める場を提供する。	12月 年間1回	3,000円以下
52		“きぼっこ体験事業” 希望が丘春のプチキャンプ	家族で体験するディキャンプを通して自然探究や野外活動への興味・関心を高め、創造力を豊かにする機会を提供する。	3月 年間1回	2,000円以下
53		希望が丘キャンプリーダー体験説明会	新規希望者を対象にキャンプ場利用者の対応や事業企画立案・運営に関わる基礎的な説明会を開催し、登録、全体研修会につなげていく。	4月 年間1回	1,000円以下
54		希望が丘キャンプリーダー研修会	キャンプリーダーに登録している学生を対象に、自然体験や野外活動に関する知識・技術の研修を行い、スキルアップを図る。	通年	3,000円以下
55	自主事業	フィールドアスレチック事業	俵藤太百足退治をモチーフに設置されたロープと丸太との遊具で遊びながら体力と健康づくりをする。36ポイントの他にお城ジャングル(9ポイント)、幼児コース(11ポイント)を開設。幼児から大人までの幅広い人々に、自然の中での体力の向上や家族サービス、校外学習の場としての役割を担う。	令和8年4月～9年3月 (通年)	
56		グラウンド・ゴルフ事業	グラウンド・ゴルフ場は4コース32ホールで運営。自然豊かな公園の特性を生かし、子どもから高齢者まで誰でも楽しめる生涯スポーツの活性化の一翼を担うとともに、県民の健康増進を図るため実施する。	令和8年4月～9年3月 (通年)	
後援事業		第34回全国中学校駅伝大会	中学校教育の一環としてわが国特有の駅伝文化を継承する機会を広く与え、心身ともに健康な中学校生徒を育成するとともに、中学校生徒の相互の親睦を図る。	12月 年間1回	参加費 後援団体(日本陸上競技連盟)が徴収